

美術の技法・材料に関する広領域的研究 (①美03-07-2/5)

目 的

本研究は文化財にかかわる諸分野との提携によって、美術作品の多角的研究を目指すものである。具体的には美術作品が基盤としている材料や用いられた技法、制作の過程・作品の成り立ち、生成されてから今日に至るまでそれがどのように受容され、あるいは伝来してきたか等を関係の文献史料や、あるいは直接、作品に対しての科学的・光学的手法（X線透過撮影、蛍光X線非破壊分析、赤外線撮影など）による分析をも援用しながら解明し、美術作品を考究してゆくことを目的とする。

成 果

(1) 作品・関係資料の調査・研究：本年度は以下の作品・関係資料の調査を行った。

ア) 安城市歴史博物館一時寄託『親鸞聖人絵傳』卷子本断簡の調査

イ) 東京・個人蔵 菩薩立像（脱活乾漆造、天平時代）の調査ならびにX線透過撮影

ウ) 東京・高円寺蔵 阿弥陀如来坐像（木造、江戸時代）の調査

エ) 奈良文化財研究所架蔵貴重書『十六羅漢記』（中世写本。「久寿二年丈六金色阿弥陀仏像支度注文書」「同年丈六像座飾支度殊」「仏の法量」を収録する）の原本閲覧調査

オ) アメリカ・サンフランシスコ東洋美術館蔵梵天・帝釈天像（脱活乾漆造、天平時代）の調査ならびに関係資料の閲覧

(2) 彩色関係データ（語彙・史料編）の集積とホームページによる公開

美術工芸品の彩色を調べてゆくうえで、史料にあらわれた関係語彙とその使用例を総覧することを目的に彩色関係資料データベース（語彙・史料編）のデータ集積を行った。集積に際しては公刊史料（活字本）をもとに、その中から彩色関係の語彙の抽出につとめ、分類し、奈良時代史料にあらわれた彩色語彙データベースをホームページにおいて公開するとともに、逐次、更新に努めた。

関連論文・発表等 3件

- ・ Tetsuei Tsuda “Nondestructive Investigation of the Polychromy of Japanese Sculptures (Yasuhiro Hayakawa, Tetsuei Tsuda, and Sadatoshi Miura)”, *Scientific Research on the Sculptural Arts of Asia: Proceedings of Third Forbes Symposium at the Freer Gallery of Art*, pp.159-164, 07.7
- ・ 津田徹英「X線透過撮影による仏像の調査」『文化財と科学技術—東京文化財研究所のしごと（日本の美術492）』至文堂 pp.45-47 07.4
- ・ 津田徹英「平安末期の在地造像をめぐる小考」企画情報部研究会 東京文化財研究所 07.12.26

研究組織

○津田徹英、江村知子、勝木言一郎、皿井舞、塩谷純、田中淳、中野照男、山梨絵美子、綿田稔（以上、企画情報部）